

平成18年度もたくさんのエビや魚を放流しました！

(栽培漁業センター 主任研究員 三木勝洋)

今年度は、平成17年12月末に生まれた(卵でなく子魚の姿で生まれます)タケノコメバルを平成18年5月1日に放流してから、9月29日のキジハタ(アコウ)まで、6種類の種苗を放流しました。



平成18年度種苗配付結果

魚種名	放流サイズ	放流尾数
タケノコメバル	50mm以上	82,500尾
ヒラメ	50mm以上	418,800尾
クルマエビ	50mm以上	2,909,200尾
	70mm	199,800尾
キジハタ(アコウ)	5mm	153,400尾
ガザミ(渡りガニ)	13mm	1,138,000尾
サワラ	74mm	71,633尾



ヒラメやクルマエビは、屋島の栽培漁業センターである程度まで育てた後、放流後の生き残りを高めるため、さぬき市小田にある広さ約5,000㎡の大規模中間育成場(底が砂地で天然の環境に近い)へ移して育てられます。また、広い範囲を高速で泳ぐサワラも、大規模中間育成場で大きく育て、放流後の生き残りを高めてから放流します。

ガザミは生産時期がクルマエビと重なるので、他県で生産したものと香川県栽培漁業センターで生産したクルマエビを交換して放流しています。ガザミも現在、中間育成試験に取り組んでおり、5mmの大きさを配付を受けたものの一部を13mmまで育ててから放流します。高松市の漁業者も中間育成に取り組む、放流したものが効率的に取れるようがんばっています。

放流している種苗の多くは、漁協等に有償で配布されており、漁業関係者は「作り育てる漁業」に懸命に取り組んでいます。レジャー等で、小さな魚などを捕まえた場合逃がしてあげてください。

また、魚種によっては、小さなものは捕ってはいけません(詳しくは下記のURLを参照してください)ので、ご協力をお願いいたします。

これからも、より豊かな香川県の海を目指して、種苗の放流に努めていきます。

体長制限等の情報【<http://www.pref.kagawa.jp/suisan/flash/benri/benri.htm>】